

## 会 議 録

|      |                                                                                                                                                                                            |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催日時 | 令和6年度 第3回 子どもの読書活動推進計画(第4次)策定委員会                                                                                                                                                           |
| 開催日時 | 令和6年10月4日(金)午後3時から午後4時10分まで                                                                                                                                                                |
| 開催場所 | 加古川市役所 新館191会議室                                                                                                                                                                            |
| 出席者  | <p>&lt;委員&gt;<br/>森委員、乾委員、伊東委員、山根委員、川口委員</p> <p>&lt;職員&gt;<br/>岡本社会教育課長、岡本学校教育課長、岡本教育支援課長、樽本加古川図書館長<br/>松本中央図書館長(代理:田中中央図書館副館長)</p> <p>&lt;事務局&gt;<br/>中央図書館(川添事務担当係長、田杭司書、成川司書)</p>       |
| 会議次第 | <p>1 開会</p> <p>2 委員長挨拶</p> <p>3 議事</p> <p style="padding-left: 40px;">(1) 加古川市子どもの読書活動推進計画(第4次)素案に基づく計画案の検討について</p> <p style="padding-left: 40px;">(2) パブリックコメントの実施要領等について</p> <p>4 閉会</p> |
| 配布資料 | <p>1 加古川市子どもの読書活動推進計画(第4次)素案</p> <p>2-1 パブリックコメント実施要領</p> <p>2-2 パブリックコメント意見提出用紙</p> <p>2-3 パブリックコメント計画案・意見箱・用紙 設置場所一覧</p>                                                                 |
| 傍聴人数 | 2名                                                                                                                                                                                         |

### 審議等内容

#### 1 開会

事務局より、資料の確認

#### 2 委員長挨拶

#### 3 議題

- (1) 加古川市子どもの読書活動推進計画(第4次)素案について(資料1)

事務局より、加古川市子どもの読書活動推進計画(第4次)素案 1～6章並びに資料編について、資料の修正点等の説明を行った。

事務局：第2回の会議で出たご意見、関係各課からの意見などをふまえて、前回の会議でお渡しした素案から修正しています。

第1章と2章については、修正をしておりません。第3章については、コメントについて数か所追加、修正しております。また実績値も一部に平成30年度、令和4年度の数値をあげていたところを、令和元年と令和5年度に合わせました。数値を変更したところは、11ページの読み聞かせ等ボランティア養成講座の実績と、絵本リスト「はじめまして絵本」の箇所です。

第4～6章についても数か所追加、修正をしています。14ページの④両荘みらい学園学校図書館の地域開放サービスによる読書環境の整備について、「さらに、公共図書館とも連携しながら、学校図書館ならではの様々な事業を展開していきます」という一文を追加しました。15ページの③読書活動関連事業の実施のウ読書手帳の活用、16ページのイ連携事業の実施の(b)について文章を修正しました。続いて⑦公共図書館司書・職員の知識・技能の向上では、一番下の行、児童サービスについての職員の知識・技能の向上に変更しました。20ページの(1)保護者を含めた市民への啓発については、2か所図書館利用を働きかける内容を追加しています。

委員長：ただいまの事務局の説明について、何か質問やご不明な点などございませんでしょうか。

委員：用語集の2ページのところ、読書手帳について図書館で借りた本を手書きしなくても、シールでプリントして、手帳に貼り付けるだけで、簡単に自分の読書記録ができるということなど、説明が補足的に入ればと思います。

委員：この会議に出席して読書手帳の存在を知ったので、読書手帳について説明をお願いします。

事務局：先ほど委員が言われた通り、読書手帳は借りた本の書名を記録できる手帳で、書名が書かれたシールが印刷できる専用の端末があり、その端末の横に手帳を置いています。

委員：5ページの取り組み状況総括のところですが、しかしながらコロナ禍によりこういうことができませんでしたということが第2段落で書いてありますが、第3段落では、こういうふうに進んできましたということが書いてあり、文章の順序的におかしくないかと思いました。

委員：21ページの第5章の、子どもの読書活動推進計画の取り組み目標設定のところですが、5年後の目標が全国平均以上というのではなくて、令和5年度の状況を少しでも上げていくほうがいいと思いますがいかがでしょうか。

事務局：全国平均以下とか以上としているのは、兵庫県の「ひょうご子どもの読書活動推進計画(第5次)」で、同様に1ヶ月に1冊も本を読まない生徒の割合が、目標は全国平均以下、読書が好きな児童

生徒の割合が、全国平均以上と目標設定しており、県の推進計画に合わせているためです。

委員：もう少し上のことを目指してもいいのではないかというふうには思います。他の委員の方々のご意見も聞かせていただきたいと思います。

委員長：第3次推進計画では数値目標が設定されていませんでしたが、第4次から目標設定が行われ、数値目標については進捗状況に合わせ適宜見直していくと示されています。現在は、多様性の時代であり、「読書が好きな子ども」という限定的なものではなく、多様な子どもたちに対してどのような読書環境を提供できるかが、国や県からも求められています。また、読書の数値化というのは難しい面もあり、読書環境の充実を考えたときに、例えば、文科省や全国 SLA が示している学校図書館の蔵書数や、本以外のメディア数などの数値目標に対して、達成状況を評価していくことが重要です。さらに学校司書の配置についても課題があり、予算の制約から十分な配置が難しい面もあるが、その配置が適切に行われているかどうかとも検討が必要です。

委員：8ページに小・中学校ともに図書室担当職員の確保、学校司書の配置の要望が最も高いと書いてあって、司書資格を持っておられる教員が学校におられますが、学校司書はゼロ。学校司書数は現在ゼロであるけれども、この計画時、何年間か先には必ず増やすというような方向の目標を入れてもらいたいと思います。例えば、全校に学校司書を配置するのは難しいかとは思いますが、両荘みらい学園のように、各中学校エリアで1人は設けていくとか、目標をぜひ立てられたら、変わってくるのではないかなと思いました。

事務局：学校司書については、学校教育課のほうからお話していただいてもよろしいでしょうか。

学校教育課長：学校司書の配置につきましては、以前から希望があるというのは、十分承知しております。実際に具体的な数値で、何年度までにということが、なかなか、今現在お伝えできないところがあります。ただ、学校司書の配置については、現在両荘みらい学園を中心に、今後どういう展開をすればいいのか、1校に1人なのか、例えば拠点に1人いて、その拠点の方を中心に巡回するような形がいいのかなど、他市町の状況も鑑みながら、検討を進めているところです。現在両荘みらい学園の学校司書より市内各学校でどういうことに困っているのか、どのような希望があるのか、どうすれば特に中学校の図書館が充実するのか、というようなことで意見を聞きながら、学校司書の配置に向けて検討を進めているところです。

委員：学校司書の方がいらっしゃるのが一番いいとは私も思うのですが、予算のこととかいろんな問題があると思います。私が聞いた話では、学校図書館専属の先生がいないので、保護者の中からボランティアを募って、本の修理とかされているみたいです。その日は、学校図書館を利用するように学校として取り組んでいらっしゃるみたいで、やはりそこに誰かがいるということで、子どもの図書委員の人だけの日よりも、学校図書館を利用するのが多くなっている。学校司書のこともあるのですがボランティアの取り組みもまた入れてみるのも1つの方法かと思います。

委員：図書館ボランティアについては貸し出し、修理とそれからおはなし会等も非常に充実してやっている学校がたくさんあります。いろんなところで働きかけていただいて、それぞれの学校園で、地域を巻き込んでの読書活動というのが推進できるようになれば一番いいと思いますが、うまくその目標設定に入るのかというのがなかなか難しいところだと思います。数字的なことで言うと、1冊も読まないとかいうよりも、私が一番気になっているのは9ページの1週間に学校図書館を1回も利用しない子どもという項目で、中学生は、8割ぐらいの子が1週間に1回も図書館を利用しない。高校生についてはもうほぼ9割の子が学校図書館を利用しないというあたりが気になります。

(2) パブリックコメントの実施要領等について(資料2-1~2-3)

事務局より、パブリックコメント実施要領、意見箱設置一覧等について、資料の説明を行った。

委員：意見提出用紙についてご意見・ご提案の欄は、書きやすい体裁のものにしたほうがよいと思います。罫線を引いている、欄が区切ってあるとか工夫があればいいと思います。

中央図書館副館長：市の要綱で様式も決まっていますが、罫線を入れる程度でしたら、おそらく可能かと思います。担当部署に確認し、調整できたらと思います。

事務局：様式以外の用紙に意見をいただくことも可能です。そのときはお名前等必要事項を必ず書いていただくことになります。

中央図書館副館長：この度の計画から目標を入れることにしました、どの数字を使うのかというのは非常に悩んだところです。本を読むのが好きな子どもの割合というのは抽象的ではという意見がありましたが、読書に関するアンケート結果では、全国的に右肩下がりで進んでいます。各自治体も頑張っておられますが実際はそういう結果になっていますので、数値目標としては、まず基本的ではありますが、ご覧のとおり設定しました。また、上位計画である兵庫県の計画でも取り上げており、それに準じたものとしていますので、この目標で進めていければと考えています。

委員長：国の方向性や理念では、「子どもの視点を導入する」と記載があったかと思います。その点では加古川の読書環境がどのように変わるのかを子どもたちにわかりやすく伝えるため、パンフレットやリーフレットを作成し、子どもの意見を聞くような場を設けるのも良いのではないのでしょうか。パブリックコメントは、大人向けのものが中心となりがちですが、大人が考えた読書環境について、子どもの意見を取り入れることは非常に重要です。そうした取り組みも必要ではないかと考え、この点をお伝えしておきたいと思います。

委員：先ほど委員長が言われたことに関して、意見を提出できる方というところにちゃんと、せっかく学校に在学するものというように書いてあるので、中学生であるとか、高校生とか、これから先のいろんな加古川市を背負っていってくれる子どもたちが、こういう意見を出す場というのがあるのだ、こう

いうのも変えてもいいのだというような意見公募がうまくできれば、すごくいいなと思います。

事務局：市内各図書館の入口の方に置くようにはさせていただく予定にしています。11月号広報、市のホームページや図書館のホームページにも掲載する予定です。

委員長：例えば、公共図書館のイベントで大学生などを対象とした講座やイベントを開催する機会はあるのでしょうか。そうした場があれば、パブリックコメントの存在を知ってもらう良い機会にもなるかと思えます。そのような機会を通じて、広くアピールすることも一つの方法ではないかと思いました。

事務局：加古川図書館では、3校の高校の吹奏楽部の方が、図書館のスペースにいられて演奏されることが、月に1回、2回はございます。高校生も来ていただく機会もありますし、加古川図書館は学習室もあって、一番高校生が市内の図書館ではたくさん利用しているところだと思いますので、わかりやすいよう置くように、お願いができればいいかと思えます。

加古川図書館長：月に1回加古川西高、不定期に加古川南高、最近東播磨高校も増えてきて、多いときには月3回ぐらい演奏会をしています。そのときに、パブリックコメントのちらしをお渡しするというので、その会場に保護者の方も見に来られますので、PR等をさせていただくことは可能です。

委員長：「あなたの一言がこう反映されます」といった形でPRできるチラシがあれば、パブリックコメントも若年層にアピールしやすくなるのではないのでしょうか。パブリックコメントは比較的に年齢が高い方々の意見が多い印象ですが、こうした工夫で年齢層がさらに広がるのではないのでしょうか。

委員：気になるのは、計画はいいものができたからと、それで終わりではないですね。それをどうやって成果につなげていくか、これからが大変だと思うのです。気になることの1つは、基本理念の読書環境づくりというのが理念になっていまして。蔵書数を増やしていく、あるいは子どもの本を読まない子どもが増えている、それをどうやって増やしていくかと、これ1つのバロメーターとしては、いいことなのですけども、本をたくさん増やしたからといって子どもが本を読みません。読書を強制してはいけませんね。本当に好きなら楽しくなるような環境を、加古川市あるいは図書館あるいは市民ボランティアの方が盛り上げて、そういう環境を作っていくというのが、私は大事ではないかと思っています。もう1点は19ページに、「地域社会の支えとボランティア育成の拡大」があるのですが、ここの部分というのをうまく活用してもらいたいと思うのが私の2つ目のお願いです。以前、児童クラブで将棋教室の指導していました。でも、その当時は、おはなし会とか読み聞かせという、そういう教室がなかったです。私は中央図書館のストーリーテリングで登録していましたが、ボランティアはたくさんいらっしゃいます。そういう人たちをもっと活躍できるような場を、小学校あるいは園とか、いろんな教室を、もっと盛り上げていただきたい。私はもっと地域社会の方との交流とか、もっと力を入れてやっていただきたいと、その2つが気になりました。

委員長：委員からのご指摘はもっともでして、子どもたちに本を強制して読ませる主旨ではないので、本を読ませる、本が好きとか、読まない子どもの割合という目標設定については慎重に検討が必要だと感じています。もう一点、加古川市のボランティア活動のさらなる推進についても重要な視点であり、計画案の中でどのように反映するのか、事務局側と確認を進めて参りたいと思います。

事務局：本日は長時間にわたり、熱心にご討議いただきありがとうございました。この会議以降、パブリックコメントまでの計画素案の修正につきましては、委員長と事務局の方で一任ということでお願いしたいと存じます。次回の会議は、パブリックコメントに寄せられた意見を踏まえて、意見に対する市の考え方や、必要に応じて加筆・修正する内容について、ご協議いただきたいと思います。時期は1月中旬頃を予定しております。